

## 2 調査結果の分析

### 【小学校】

#### (1) 無解答率と「解答時間は十分だったか」

無解答率の経年変化から、国語A・B、算数A・Bともに、無解答率の平均は毎年減少傾向にあり、平成20年度との比較では大幅に減少している。また、平成25、26年度ともに、全国の平均とほぼ同様になっている。

これは、学校での「わかる授業」の実践、諦めずに粘り強く取り組む指導の成果であると考えられる。さらには平成21年度に指摘されていた「対外的な問題形式に慣れていない」ことへの取り組みの効果等により、解答せずに終わる児童が減少している表れだと考えられる。

一方、児童質問紙調査における「解答時間は十分だったか」については、「足りなかった」(①全く足りなかった)と「②やや足りなかった」の合計)と回答している割合が毎年減少傾向にあり、全国平均との差も大幅に狭まっている。しかし、全国平均に比べると、「時間が足りない」と感じる児童が多い。

全国学力・学習状況調査 無解答率経年変化

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	20.1	18.1	14.9	<b>4.8</b>	寒川町 (全国との差)	24.1	22.3	18.9	<b>12.7</b>
	(9.2)	(8.2)	(4.2)	<b>(2.5)</b>		(11.8)	(10.2)	(5.3)	<b>(3.5)</b>
全国	10.9	9.9	10.7	<b>2.3</b>	全国	12.3	12.1	13.6	<b>9.2</b>
算数A	20年度	21年度	25年度	26年度	算数B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	7.1	4.7	2.0	<b>1.3</b>	寒川町 (全国との差)	13.1	12.1	8.8	<b>8.1</b>
	(4.1)	(2.6)	(0.3)	<b>(0.4)</b>		(7.1)	(5.9)	(2.5)	<b>(3.8)</b>
全国	3.0	2.1	1.7	<b>0.9</b>	全国	6.0	6.2	6.3	<b>4.3</b>

児童質問紙調査「調査問題の解答時間は十分でしたか」

①「全く足りなかった」+②「やや足りなかった」

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	67.6	67.0	65.7	<b>25.2</b>	寒川町 (全国との差)	59.9	51.6	46.5	<b>58.2</b>
	(23.1)	(24.0)	(16.8)	<b>(11.1)</b>		(18.9)	(14.1)	(6.0)	<b>(9.2)</b>
	① 12.4	① 11.3	① 13.3	① <b>3.1</b>		① 16.9	① 15.6	① 13.3	① <b>14.3</b>
	② 55.2	② 46.2	② 52.8	② <b>22.1</b>		② 43.0	② 36.0	② 33.2	② <b>43.9</b>
全国	44.5	43.0	48.9	<b>14.1</b>	全国	41.0	37.5	40.5	<b>49.0</b>
算数A	20年度	21年度	25年度	26年度	算数B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	39.0	28.0	31.3	<b>16.7</b>	寒川町 (全国との差)	48.8	37.8	33.7	<b>34.0</b>
	(18.6)	(12.1)	(7.6)	<b>(6.4)</b>		(17.8)	(9.1)	(5.8)	<b>(10.8)</b>
	① 8.7	① 5.4	① 6.0	① <b>2.9</b>		① 13.6	① 10.4	① 7.2	① <b>9.4</b>
	② 30.3	② 22.6	② 25.3	② <b>13.8</b>		② 35.2	② 27.4	② 26.5	② <b>24.6</b>
全国	20.4	15.9	23.7	<b>10.3</b>	全国	31.0	28.7	27.9	<b>23.2</b>

## (2) 小学校国語 A 課題と考えられる問題

### ① 漢字を読む

[1]一 (3)「勢い→いきおい」 正答率 65.4% (全国と9P差)、短答式

(参考・同一の問題) 平成20年度

[1]一 (3)「勢い→いきおい」 正答率 75.4% (全国と0P差)、短答式

### ② 漢字を書く

[1]二 (2)「いわう→祝う」 正答率 36.6% (全国と22P差)、短答式

(3)「よぼうする→予防する」 正答率 60.1% (全国と17P差)、短答式

(参考・同一の問題) 平成20年度

[1]二 (2)「よぼうする→予防する」 正答率 42.4% (全国と20P差)、短答式

漢字を読んだり書いたりする機会を増やし、語彙力を高める指導が必要である。また、当該学年までに配当されている漢字を正確に習得するために、漢字の音訓、部首、点画などに、間違いがないかどうかを日常的に確認することが必要である。

### ③ 故事成語の意味と使い方

[2]一 「五十歩百歩」の意味 正答率 40.8% (全国と15P差)、選択式

(参考・類似の問題) 平成25年度

[2]一 「石の上にも三年」の意味 正答率 64.0% (全国と7P差)、短答式

故事成語、ことわざや慣用句などの意味や使い方を正確に理解し、自分の表現で使うことができるように指導する必要がある。

### ④ 複数の事柄を並列の関係で書く

[6]一 「～たり」が一つの文章を、「～たり、…たり」の文章に直す

正答率 66.0% (全国と8P差)、短答式

文や文章の構成を理解し、適切な表現を用いることへの理解が不十分である。日常的な会話や作文の中で継続的に幅広く指導する必要がある。

### ⑤ 話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける

[7] 話し合いの際の記録の仕方として、複数の観点をに基づいて分類していることについて、適切に説明している文章を選ぶ

正答率 64.7% (全国と7P差)、選択式

(参考・類似の問題) 平成25年度

[7] スピーチの表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選ぶ

「石の上にも三年」の意味 正答率 33.3% (全国と10P差)、短答式

話し合いの場面では、話し合いの観点を明確にし、図に分類したり表にまとめたりしながら、互いの考えを関係付けて進めていく必要がある。また、話し合いの内容をメモやノートに整理して書く習慣をつけることも大切である。

**【小学校国語A これまでに課題としてあげられていた問題について】**

○ローマ字の規則性→**出題されず**

- ・ローマ字については、その表記や使用を着実に押さえさせると共に、様々な学習や生活の中でローマ字を使う機会を増やしていく必要がある

○接続語を使って一文を二文に分けて書く→**出題されず**

- ・文や文章の構成についての理解についての指導が必要である (④)。

○図や表・グラフなどの資料、広告や新聞・雑誌などの様々なメディアの情報を読み、分かったことを的確に書く・特徴を捉えて書く→**出題されず**

### (3) 小学校国語B 課題と考えられる問題

#### ① 質問の意図を捉える

- 1二 「討論会の様子」を読み、質問者のねらいとして適切なものを選択する

正答率 53.7% (全国と6P差)、選択式

調べた事やまとめたことについて討論などをする場面を設定し、一人ひとりの児童が、司会の役割を果たしたり、参加者として立場や根拠を明確にしたりして話し合いを進めていく実践的な学習が必要である。

#### ② 内容を関連付けながら、最初にもった疑問を捉える

- 2一 「科学読み物」を読んで書かれた付箋から、最初にもった疑問を捉えて書く

正答率 65.6% (全国と6P差)、短答式

#### ③ 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く

- 2二 最初にもった疑問に対するまとめを、与えられた条件に合わせて書く

正答率 15.8% (全国と11P差)、記述式

課題を解決するために、目的に応じて必要となる情報を取り出し、整理し、それらを関係付けた文章を書いていく実践的な学習が必要である。

#### ④ 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く

- 3三 詩1と詩2を比べて読み、グループに分かれて交流した様子を読んだ上で、自分の考えを、①内容や表現の仕方について共通点や違う点を取り上げて書くこと②

「たんぽぽ」「まどみちお」の両方の言葉を使って書くこと③80字以上100字以内にまとめて書くことの三つの条件に合わせて書く

正答率 34.4% (全国と13P差)、記述式

詩や文を読み、感じたことや考えたことを交流する場面を設定し、内容や表現の工夫を捉えることや、共通点や相違点に着目して自分の考えを書いていく実践的な学習が必要である。

#### (4) 小学校算数 A 課題と考えられる問題

##### ① 計算

① (6) 異分母分数の加法  $1/3 + 2/5$

正答率 79.8% (全国と10P差)、短答式

3/15(1/5)…通分はできているが分子そのまま、もしくは3/8…通分せずに分母分子どうしを足している解答が9.4%である。四則計算については概ね良好であるが、計算の手続きの確実な定着を図る必要がある。

##### ② 割合

② (2) 80cmを1倍としたとき、0.4倍のテープの長さを表す式を選ぶ

正答率 46.9% (全国と7P差)、選択式

(1) 1.2倍は、 $\times 1.2$ と答えられても、(2) 0.4倍は、 $\div 0.4$ の誤答が36.8%である。平成25年度も百分率が課題として挙げられている。割合について、比較量=基準量 $\times$ 割合の関係についての理解ができるよう引き続き指導が必要である。

##### ③ 単位量あたりの大きさ

④ (2) 8㎡に16人いる部屋の1㎡あたりの人数を求める式を書く

正答率 51.5% (全国と9P差)、選択式

(1)の混み具合を表す図は選んでいる。「面積」と「人数」の二つの量のどちらを単位量とするかを判断して立式する必要がある。問題場面に応じて、二つの量のどちらを単位量とするかを捉えた上で立式する指導が必要である。

##### ④ □、△などの記号を用いて式に表す

⑨ 正五角形の1辺の長さを□、周りの長さ△として式に表す

正答率 75.4% (全国と6P差)、選択式

変数を表す記号として、□や△などを用いると、数量の関係や計算の法則を簡潔・明瞭・的確・一般的に表すことができるよさに気付くよう、□や△などを用いる場面を理解できるようにする必要がある。

## 【小学校算数A 課題としてあげられていた問題について】

- 計算 小数×小数、分数×整数、除数と商と余りから被除数を求める→出題なし
- 合同な三角形を書くために必要な条件→出題なし
- 四捨五入→出題なし
- 面積 1 a (アール)、1 h a (ヘクタール)、1 km<sup>2</sup> →出題なし
- 必要な情報を取り出して面積を求める (昨年度学習指導の効果あり)
  - 平成25年度は台形の面積 73.2% (全国と0P差)
  - 平成26年度は体積を求める問題 75.2% (全国と5P差)
- 円や円柱、展開図等から長さや角度を求める
  - 平成25年度は円柱の展開図から長さを求める 59.9% (全国と6P差)
  - 平成26年度は円周の長さを直径の長さから求める 78.7% (全国と5P差)

## (5) 小学校算数B 課題と考えられる問題

### ① 計算

- ① (2)  $37 \times 3 = 111$  をもとに、 $37 \times 24 = 888$  になることを式や言葉を使って説明する。 正答率 45.0% (全国と10P差)、記述式

計算の規則性やきまりを見だし、それらを活用したり計算の工夫をしたりしながら、効率よく計算の結果を導き出すことについて、実際に筋道を立てて考える場面をより多く設定する必要がある。また、この設問については、前段で  $37 \times 6 = 222$  になることを二人の子どもが説明をし、それをもとに解答する形式のため、問題文をよく読み、求められていることを理解し、具体的に式や文章に書いていくことへの指導が必要である。

### ② 棒グラフの棒が枠の中に表すことができない理由を記述

- ② (2) 1目盛りを  $50 \text{ m}^3$  として棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠に入らない月を選び、そのわけを書く。

正答率 61.4% (全国と7P差)、記述式

「6・7月が枠に入らない」と90%以上が答えている。理由の説明をする際に、数学的に水の量や最大値、マスの数や一目盛りの大きさを挙げて、筋道を立てて文章に書いていくことへの指導が必要である。

### ③ 情報の整理・選択と判断の根拠の説明を記述

- ③ (2) 10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択する。 正答率 47.6% (全国と9P差)、選択式
- (3) 示された分け方でスープを分けるとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く

正答率 23.9% (全国と6P差)、記述式

① 10人分のスープの量② 30人または40人に必要なスープの量③ 10人に分けた後または分ける前のスープの量④ 比較した結果、という理由の説明に必要な言葉や数を用いて、筋道を立てて説明していくことへの指導が必要である。また、40人にご飯を配る時に4等分を10人ずつ配るといった、日常的における数学的な便利や簡潔さを理解し、実際に使う機会が大切である。

④ 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述

- ④ (2) 6小節目で (イ) のリズムを演奏する人と、4小節目で (イ) のリズムを演奏する人が、リズムが重なる12小節目の12はどのような数であるか書く。

正答率49.8% (全国と10P差)、記述式

この設問については、無解答率が高い。最小公倍数や公倍数についての理解と、実際に使うことができることへの指導が必要である。また、日常生活や他教科等の学習場面において、事象の中から規則性を見つけたり効率よく問題を解決したりする、数学的に表現する場面を意識的につくることが大切である。

## 【中学校】

### (1) 無解答率と「解答時間は十分だったか」

無解答率の経年変化から、国語A・B、数学A・Bともに、無解答率の平均は毎年減少傾向にある。全国の平均と同様の推移をし差を少しずつ狭めており、平成25、26年度ともに、全国の平均と同じと言える。これは、小学校同様、学校での「わかる授業」の実践、諦めずに粘り強く取り組む指導の成果であると考えられる。

一方、生徒質問紙調査における「解答時間は十分だったか」については、「足りなかった」(①全く足りなかった)と「②やや足りなかった」の合計)と回答している割合については、国語A、数学Aについては減少傾向にあるが、国語B、数学Bについては増加している。しかしながら、国語A・B、数学A・Bともに、毎年全国の平均の推移と同じである。

全国学力・学習状況調査 無解答率経年変化

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	5.2 (1.4)	5.2 (1.9)	3.6 (1.2)	4.0 (0.9)	寒川町 (全国との差)	12.2 (3.6)	9.1 (3.5)	4.8 (2.0)	4.5 (1.0)
全国	3.8	3.3	2.4	3.1	全国	8.6	5.6	2.8	3.5
数学A	20年度	21年度	25年度	26年度	数学B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	8.7 (2.1)	7.7 (2.6)	6.0 (0.7)	5.2 (0.9)	寒川町 (全国との差)	17.6 (4.2)	15.7 (6.0)	20.9 (4.2)	13.7 (2.8)
全国	6.6	5.1	5.3	4.3	全国	13.4	9.7	16.7	10.9

生徒質問紙調査「調査問題の解答時間は十分でしたか」

①「全く足りなかった」+②「やや足りなかった」

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	13.0 (3.6)	4.4 (+0.8)	5.7 (+0.6)	5.8 (+0.2)	寒川町 (全国との差)	34.7 (3.4)	7.5 (+0.6)	20.7 (+1.1)	19.5 (0.1)
	① 3.4 ② 9.6	① 1.1 ② 3.3	① 1.7 ② 4.0	① 1.3 ② 4.5		① 9.6 ② 25.1	① 1.5 ② 6.0	① 4.0 ② 16.7	① 3.5 ② 16.0
全国	9.4	5.2	6.3	6.0	全国	31.3	8.1	21.8	19.4
数学A	20年度	21年度	25年度	26年度	数学B	20年度	21年度	25年度	26年度
寒川町 (全国との差)	12.8 (2.5)	7.5 (0.2)		6.4 (+2.1)	寒川町 (全国との差)	27.3 (+3.5)	13.2 (+0.6)		22.1 (0.2)
	① 3.7 ② 9.1	① 2.0 ② 5.5	① ②	① 1.9 ② 4.5		① 9.1 ② 18.2	① 2.4 ② 10.8	① ②	① 4.5 ② 17.6
全国	10.3	7.3		8.5	全国	30.8	13.8		21.9

※25年度は質問紙調査が3種類あり、全校での質問項目になっていない。

※25年度は数学A・Bについての質問項目がない。

## (2) 中学校国語 A 課題と考えられる問題

### ① 文脈に即して漢字を正しく読む・書く

- [8]二 1 [読み]「稚魚」→「ちぎよ」 正答率 63.6% (全国と13P差)、短答式  
[8]一 1 [書き]「しょうたい」→「招待」 正答率 43.3% (全国と14P差)、短答式  
[8]一 3 [書き]「うつ(す)」→「移(す)」 正答率 66.8% (全国と6P差)、短答式

漢字は、一字一字を正確に読み書きできるようにすることに加え、文脈の中で適切に使えるようにすることが大切である。既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れることが大切である。

### ② 語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う、辞書を活用して、語句の意味を適切に書く

- [8]三エ 笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「笑う門には福来たる」という 正答率 82.1% (全国と7P差)、選択式  
[8]四 国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く(英気を養う) 正答率 53.5% (全国と6P差)、短答式

語句の学習の際には、辞書の記述の仕方の特徴を理解して活用することが大切である。さらに、語句についての理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えることが大切である。語感を磨き語彙を豊かにするためには、類義語を取り上げて使う場面や伝えたい内容を考えた上で適切に使い分けたり、「ことわざ辞典」を活用し、実際に話や文章の中でことわざや慣用句等を使ったりするなどの学習活動の工夫が必要である。

### ③ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む

- [8]五 1 「まうけて」→「もうけて」 正答率 67.9% (全国と12P差)、短答式

古典の学習の際には、古文の音読や朗読を通して古典特有のリズムを味わい、古典に表れたものの見方や考え方にふれ、古典への興味関心を深めることが重要である。

### ④ 多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる

- [7]一 文章を書くために使った付箋として適切なものを二つ選ぶ 正答率 78.6% (全国と6P差)、選択式

音楽科や美術科等との関連を図りつつ、芸術的な作品を鑑賞し、対象となる作品の表現の仕方、作り手の思いや見方、作品から受けた印象や感動に触れ、伝えたい事柄が明確になるように工夫して書くことが大切である。その際、集めた材料を分類、整理し、取捨選択しながら表現することを指導する必要がある。

**【中学校国語A 全国平均との差が0 pのもの】**

○目的に応じて、資料を効果的に活用して話す

①一 フリップの効果を説明したものとして適切なものを選択する（選択式）

○登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する

③一 主人公が「素通りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する（選択式）

○文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する

⑤二 「次々に簡略化していった」理由を説明したものとして適切なものを選択する（選択式）

○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う

⑧三キ 適切な語句を選択する（忙しい兄は、休日にのびのびと羽を伸ばす）

### (3) 中学校国語B 課題と考えられる問題

#### ① 表現の技法について理解する

- 1一 標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する

正答率 52.7% (全国と12P差)、選択式

伝統的な言語文化と国語の特質について、**比喻や反復法、対句法や擬人法や倒置法**といった、**表現の技法について理解を深める指導が必要である。**

#### ② 情報を読み取る

- 2二 複数の資料から情報を読み取る

正答率 52.7% (全国と8P差)、選択式

- 3一 本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る

正答率 44.1% (全国と7P差)、選択式

自らの課題を解決するために様々な本や資料を読むことは、**学習や社会生活において重要である。その際には、目的に応じて必要な情報を選んで読み取ったり、幾つかの情報を組み合わせて判断したりするなど、読み取った情報を活用することが求められる。**

#### ③ 根拠を明確にして自分の考えを書く

- 1二 文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ

正答率 52.1% (全国と6P差)、記述式

- 1三 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く

正答率 41.4% (全国と6P差)、記述式

- 3二 落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する

正答率 59.6% (全国と7P差)、記述式

- 3三 落語に表れているものの見方や考え方について、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く

正答率 36.9% (全国と9P差)、記述式

多様な考えができる事柄について、**立場を決めて意見を述べる文章を書くことについては、依然として課題がある。複数の資料から必要な情報を読み取り、表現の技法を理解し、内容を適切に捉えることが必要である。さらに、文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもち、伝えたい事実や事柄や根拠を明確にして自分の考えを書く実践的な活動が必要である。自分の考えがより分かりやすく相手に伝わることを意識して書く学習場面を重視したい。**

#### (4) 中学校数学 A 課題と考えられる問題

##### ① 分数の除法ができる

- 1 (1)  $3/4 \div 5/6$  を計算する 正答率 79.8% (全国と 6P 差)、選択式

5/8 や 15/24 (分母分子どうしをかける) の誤答の割合は全国並みである。「数と式」の他の設問については概ね良好であるが、分数の乗法除法は小学校 6 年生の内容である。数量や図形についての技量については今後とも定着を意識した取り組みが必要である。

#### 【中学校数学 A 全国平均との差が 0 p 以上のもの】

##### ○数と計算

- 1 (2)  $2 \times (-52)$  を計算する  
(3)  $-7$  の絶対値を書く  
2 (1) 「プールの水の深さは 120 cm 以下である」という数量の関係を表した不等式を書く  
(2)  $10xy \div 5x$  を計算する  
3 (1) 一元一次方程式を解くとき移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ  
(2) 一元一次方程式  $(x-1)/3=2$  を解く  
(4) 連立二元一次方程式を解く

##### ○図形

- 4 (1) 線対称な図形を完成する  
(3) 与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ (全国+8p)  
5 (2) 三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ  
(4) 円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ (全国+24P)  
6 (1) 長方形 ABCD において、 $AC=BD$  が表す性質を選ぶ  
(3) n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$  が表すものを選ぶ  
7 証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ  
8 証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する

##### ○関数

- 10 (1)  $x=2, y=6$  の比例の式を求める  
(4) 反比例のグラフから表を選ぶ (全国+10P)  
11 (1) 変化の割合が 2 である一次関数の関係を表した表を選ぶ  
11 (2) 一次関数  $y=3x-4$  のグラフを選ぶ  
12 グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ

##### ○資料の活用

- 13 (1) 生徒 60 人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める  
(2) ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ

## (5) 中学校数学B 課題と考えられる問題

- ① 事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例を挙げる  
②(2) 2つの偶数の積が8の倍数になるとは限らない説明をする  
正答率59.3% (全国と6P差)、選択式
- ② 予想された事柄が成り立たない判断をし、その理由を説明する  
②(3) 2つの偶数の商は、偶数になるとは限らないことを選び理由を説明する  
正答率37.5% (全国と6P差)、選択式
- ③ 事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明する  
③(2) 大地さんの求め方を基に、ウェブする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する  
正答率49.7% (全国と12P差)、記述式
- ④ 樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理する  
⑤(1) スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める  
正答率69.7% (全国と10P差)、短答式
- ⑤ グラフの特徴を事象に即して解釈し結果を改善して問題を解決する方法を説明する  
⑥(3) 兄の出発時間を変えないときのグラフの2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する  
正答率23.9% (全国と6P差)、記述式

事柄が成り立つか成り立たないかを判断し、その理由を式に表し、その式を変形させたり、反例をあげながら、筋道を立てて説明する機会を大切にすることが必要である。また、事象を理想化・単純化してその特徴を的確に捉え、数学を用いて解決した結果を事象に即して解釈したり、樹形図やグラフを事象に即して解釈したりして、問題を解決する方法を説明する機会を大切にすることが必要である。これらは、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力にあたり、数学科の評価観点では「数学的な見方や考え方」に該当する。生徒が数学的な表現を用いて的確に表現する力を伸ばす必要がある。

### 【中学校数学B 全国平均との差が0 p以上のもの】

- 与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成させることができる  
②(1) 2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m + 2n$ を変形する (短答式)
- 図形の性質を、構想を立てて証明することができる  
④(1) 2つの線分の長さが等しいことを証明する (記述式)
- 付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる  
④(2)  $\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める (短答式)
- 与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる  
⑥(1) 弟が駅についたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める (短答式)